

【質 問】

非常に興味深いセミナーでした。

事例として農耕や家畜飼養がいかに新しいバリューチェーンの創発につながりうるのかはよくわかった一方で、アフリカのブッシュミート問題や日本の獣害など狩猟を通じた野生生物とのかかわりが生態系保全の枠組みで重要視されていることをどのようにこの議論の中で考えればよいのか？

（質問者：2016年6月25日 環境月間・北大地球研合同セミナーの参加者）

【回 答】

北大地球研合同セミナー（2016年6月25日）にご参加頂きありがとうございました。

今回の発表では、ベトナム中部の地域の状況（自然災害常襲地、貧困地域、農林水産系の小規模な生業、複数の少数民族、食の安全への脅威などなど）を背景に、人びとの暮らし（伝統知や文化を含みます）と資源・生態環境の相互連環についての学びから生まれ、地域の人びとが受け入れることができ、その社会システム（あるいはその土地の「文脈」）に沿って動かされる技術や副生業や取り組みの事例を紹介しました。なお、その人びととともに創ることを前提に、大胆な発想やシステムの提案も行いましたが、発表では割愛しました。

ご質問には、私自身も真剣に考えてみたい事柄が含まれています。一方で、ご質問がアフリカの中のどのような地域を想定されているのかを知りませんので、軽々に述べることは適当ではないでしょう。ここでは、「ブッシュミート問題（野生動物が食用あるいは商業目的で捕獲—多くは違法な狩猟—されることでおこる希少種の消滅や生態系の攪乱などの問題）」に寄せつつ、今回の発表の対象地域であるベトナム中部での私の経験（取り組み）を紹介します。

ベトナム中部の山間地では、イタチ、シカ、ムササビなど（希少な種を含みます）が罾猟により捕獲されています。動物に限らず、野生のランや薬用植物の採集も行われています。もちろん違法ですが、都市部での根強い需要により魅力ある収入源となっています。「暮らしVS自然」の構図です。この状況に対して、私たちが行っているのは、山間部の村落で新たな複数の副生業を創り、その人びとの生計手段を増やし労働力を引き寄せ、違法な狩猟・採集を軽減する試みです。これは、「暮らしも自然も」の発想に立つものです。具体的には、住民有志とともに取り組んでいる「山菜（溪流沿いに自生するクレソンやザウロンと呼ばれるシダ）の栽培」、「在来ミニブタ（沖縄のアグーのようなもの）の飼養」、「イノブタ（ふつうの豚と野生猪との交配種）の飼養」、「地鶏（ニワトリと野生鶏の交配種）の飼養」、「養蜂（アカシア造林地での養蜂、森での野生蜜蜂の養蜂）」、「水深の異なる傾斜水田での耕作（稲とタロイモ）と養魚（草魚やナマズ）」、「草木染めと伝統的織物」などです。詳しい説明は省きますが、これらは地域の人びとと私たちの知識や経験が会うことにより発想されました。実証の途中ではありますが、人びとの暮らしと自然環境との「共存」は難しくとも、「並存」を可能にする実践的事例にはなると考えています。（回答者：田中樹）

【質 問】

ネクサスについて。学際統合ツールはチャレンジングだと思いました。自然現象を規定する時空間スケールと社会・経済活動を規定する時空間スケールは必ずしも一致しないと思うので何が重複し、何がズレがあるのか等をチェックできるとよいのではと思いました。

（質問者：2016年6月25日 環境月間・北大地球研合同セミナーの参加者）

【回 答】

相互に関連・依存している自然と社会システムの複雑性を、学際統合ツールを使ってネクサスという視点で理解するために、例えば、人間の意思決定が必ずしも科学的根拠に拠らないこと等を、時空間スケールで説明（表現）できるか検討してみます。

（回答者：遠藤愛子）